TOREK 自然農法 ホットニュース

第 269 号　　2020. 9. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

豊かな稔！自然農法の証明

「土そのものは肥料の塊」との自然農法における核心的な教えの実体を、この手で掴んでみたい、味わってみたいと思わない生産者はいないと思います。豊かな稔りの姿は、自然農法の大切な証の一つでもありますから。

今年は 6 月の後半から 7 月いっぱい毎日のように雨が降り、周りの多肥多投薬の稲は日照不足による徒長と軟弱生長により、先日の強風と小 1 時間の雨でアッという間に倒伏、まるでゴザを敷き詰めたようにペチャンコになってしまいました。本当に残念です。

一方、無施肥無農薬栽培の稲は未だかつてない素晴らしい出来となり、田の隅から隅までピシャリと穂が揃い、豊かで見事に稔りつつある姿はどのように映っているのでしょうか。まだ収穫に至っていないので、現時点では決定的なことは言えませんが、「これぞ真の自然農法なり」と、大きなのぼりを掲げたい心境であります。

教えに込められた「土は肥料の塊」。その意味と力を毎日眼前に見せていただけ、これからの真の自然農法の証明に大きな自信を授けていただいております。TOREK 自然農法からの援農、会員の方々のご協力によるものと感謝しております。

現在、東京農業大学の農学からの自然農法へのアプローチも順調に進んでおり、毎月調査に来られる教授も稲の様子に驚き、「これからも気が付いたことをいろいろと教えてもらいたい」と言っています。また、長年地域の先進的な稲作を引っ張ってきた S さんも、3 年前から TOREK 自然農法に取り組み、今年の出来具合に何度も「今まで肥料を入れてきた意味が分からなくなるよなぁ」と、既成概念の転換に戸惑っています。

いよいよ現場に向けて、思いっきりお伝え、提示ができる機会が近づいている気がしています。新たな船出の節目の年。自然農法のより一層の発展に尽くしていきたいと思います。（木島平：堀政則）

ポットに一粒ずつ種をまき苗を作る

野菜の苗作り！大変さと喜び

2016 年に養鶏家の父より畑をやってみないかと声をかけられ、始めて以来 4 年目になります。当初から決めていたことは、市販の苗を購入せず、種をまき、苗を育てることです。市販の苗は肥料や農薬を使用しているため、本当に無施肥無農薬で野菜が育つのかどうか検証するため取り組んでいます。

実際、苗を育てることは、やってみると大変です。全部芽が出るわけではないし、まき方も、トレーに筋まきに種をまいて移植したりしていましたが、根が痛みやすいので、ポットに一粒ずつ種をまいて、ポットの下にヒーターをひいて、上には不織布（ふしょくふ）をかけて、夜間に温度が下がらないようにして、毎朝取り外します。毎日水やりもします。手間もかかるし大変ですが、安全で美味しいものを作りたいという想いで作っています。

当農園ではナスを作っています。始めた年は中々芽が出ず、不安でしたが、後半ぐんぐん成長し、立派なナスになりました。今年はさらに成長が良く、最初からぐんぐん大きくなりました。去年の大雨で、山から流れ込んできた柔らかい土を使ったのもよかったのかもしれません。ミニトマトもとても成長が良く、たくさんとれ、味も好評です。今年はスイカに挑戦しました。出来るかわからないなぁとダメ元で種をまきましたが、予想外に大きくなり、自然の力は素晴らしいと感じました。味もとても美味しく、包丁を入れたときの音はなんとも言えませんでした。

せっかく出来たジャガイモをイノシシに食べられてしまったり、暑い中、草を刈ったりと、地道でモチベーションが上がらないこともありますが、それでも本当に小さかった苗が大きく育ち、実をつけたときなど、自然の恵みに感謝し、農産展で展示できたときの感動は何とも言えないものがあります。

野菜の販売をさせていただいていますが、みなさんに美味しかったと言っていただけ、育ててきて良かったなと感じます。これからはもっと自然農法の野菜が必要な方々にお届けしていけたらなと思います。（千葉県：山本ゆか）

弥生会青年たちの取り組み♪

埼玉県狭山市にある無施肥無農薬栽培 39 年目の農地をお借りし、弥生会農園として作物のお世話をしております。毎年連作でじゃがいもを栽培していますが、ここ最近では種芋を 10kg 植えて 10～13kg くらいの収量と、結果は芳しくありませんでした。週 1 の私たちのお世話では、夏が近づくにつれ雑草の成長が大きな壁となり、除草が追いつかず、本来作物に行くはずの養分が雑草に行ってしまうだけでなく、限られた時間の多くを除草に費やしてきました。「弥生会のじゃがいもは小さいけど味はすごく美味しいね」と声をかけてくださる方もいますが、より多くの方への頒布へ繋げるためには収量が大きな課題となります。

そんな中、今年は様々な要因が重なり、例年よりも良い結果を頂くことができました。種芋を植える時期も例年より少し早め、適した時期に植えることができたことに加え、今年は昨年までと違い大きなドームのような畝を作り、雑草がはびこる前から土を動かし、雑草の成長を阻害する道具の使い方を TOREK 自然農法普及員の野中様に教えていただいたお陰か、雑草に覆われる状態になることなく、効率的に作業することができました。その結果、10kg の種芋を植え、収量は 25kg。

ごろごろと出てくるじゃがいもにみんなが驚き、興奮し、喜んでいる姿はとても感慨深いものでした。収量は喜ばしいものでしたが、梅雨時期に晴れ間がなく、収穫の時期が遅くなってしまったことで、虫食いも例年より多くなってしまったことが悔やまれ、難しさを感じる部分もあります。しかし、きれいなじゃがいもを販売することもでき、手にとっていただいた皆さんから後日、美味しかったと感想を頂くこともあり、素直にうれしく思うとともに、大きな感謝を感じています。

第二農園ではスイカもよく出来た

まだまだ勉強不足な私たちですが、肥料や農薬を使わずとも、自然界にならい、最適な時期に合わせ、道具の使い方やお世話の仕方を工夫することで、土の威力が引き出され、作物に伝わり、広がっていくことを実感した今回の体験は、今後も自然農法に携わる中で忘れることなく、大切な糧としていきたいと思いました。（弥生会スタッフ：江原沙貴）

お知らせ（変更の可能性あります）

★ **自然農法勉強会**　10 月 22 日（木）　午前の部　10:30～／午後の部　19:00～（別院講堂）
★ **自然農法頒布会**　10 月 29 日（木）　鎌ヶ谷会場　11:00～15:00（売切れ次第終了）

お問い合わせ先：編集部　針貝　FAX：03-3369-3324　e-mail: naturefarming@torek.jp
ＴＯＲＥＫ活動のホームページもご覧ください。　http://www.torek.jp